

学校だより



平成26年5月30日
横浜市立二谷小学校
校長 渡邊 文子

体を動かす遊びが不足していませんか

学校長 渡邊文子

「あなたは文武両道だったからねえ。」

とおっしゃったのは、私の小学校時代の恩師です。文武両道と言えは聞こえはよいですが、要するにおしゃべりでおてんばだったということです。小学校時代、特にその先生に受け持っていたいただいた中学年の頃は、本当によく遊びました。日が暮れるまで10人以上の友達と陣取り遊びに夢中になり、まさしくギャングエイジを心から楽しむ毎日でした。

さて、休みの日や放課後、二谷小の子供たちはどのように過ごしているのでしょうか。気がかかります。というのも、子どもたちの会話で「昨日は一人で家でゲームをして遊んでいた。」「カードの交換をして遊んだ。」という言葉聞くことがあるからです。そういえば、私の自宅近くの公園でもゲーム機に夢中になっている子やカード交換をしている子を見かけることがあります。子どもたちは、体を動かす遊びをしているかしらと心配になります。そんな状況を「困ったことだ」と感じている保護者の方も多くいらっしゃると思いますが、今やゲーム機やカードは、子どもの遊びの世界ではとても大きな存在であるようです。

次の表は、平成24年の11歳児童と、昭和56年の11歳児童（つまり子どもとその親世代）の体格と運動能力を比較したものです。（文部科学省HPのデータをもとに作成）

	昭和56年男子	平成24年男子	昭和56年女子	平成24年女子
身長 cm	142.8	145.0	145	146.9
ソフトボール投げ m	34.8	29.6	20.8	17.4

現代っ子は、走力と調整力に課題があると言われていますが、データを見ると、体格は向上しているものの運動能力は低迷しているようです。小学校高学年以降は、個人差はありますが、体が成長し運動能力も大きく伸びる時期です。そのような「育ちざかり」に運動をすることは、身体の成長と健康づくりのためには欠かせないことです。そして、遊びには、体を動かす楽しさと友達との関わり方を学ぶというよさがあることを忘れてはいけません。

子ども時代の外遊びから得た、心身にわたる財産は貴重であったと、自分自身の体験から実感しています。きっと保護者の皆様も同様に感じられるのではないのでしょうか。ゲームやカードを手から離して、友達と体を動かして遊ぶ楽しさを、十分に経験させたいものです。6月の梅雨の晴れ間に「やっと雨があがった！外で〇〇ちゃんたちと遊んでくる。」と飛び出して行ってほしいと思います。そのためには、大人の側の意識や姿勢も大事かもしれません。

明日はいよいよ運動会。リレーの練習で本番さながらの声援をしている子どもたちを見て、二谷小の子どもたちの素直さや明るさを感じています。運動会では思う存分に運動し、友達と共につくり上げる楽しさを味わってほしいと願っています。

子どもたちの全力を出す姿と協力し合う姿をぜひご覧ください。

